

教育協カウィーク 高等教育セッション④

「国際協力における「日本型工学教育」を問う～実践を通じた気づきと今後の挑戦～」

1. 背景

高等教育分野での国際協力は、地域事情や社会的背景が異なる一方で、その目的とするところは教育や研究の質の向上、産学連携や地域連携の活性化、教育・研究施設の改善など共通点は多く、これら目的を達成するためのアプローチの一つとして、日本の経験・知見に基づいた「日本型工学教育」の導入・実践に取り組んでいる。「日本型工学教育」の導入・実践では、研究室中心教育(LBE)、実験実習を通じた実践的な教育などが挙げられるが、開発途上国の教育・研究環境の違いなどから、日本の実践をそのまま導入することは必ずしも効果的ではない。そのため、多くのプロジェクトでは日本型工学教育の特性を活かしつつも、それぞれの国の状況や環境に配慮した実践を工夫しながら展開している。

このような現状において、本セッションでは「日本型工学教育」の意義を改めて確認するとともに、エジプト、カンボジアでの実践事例における成果と課題の検討を通じて、開発途上国における「日本型工学教育」の導入・実践方法やその留意点について議論する。

2. 目的

「日本型工学教育」、日本の工学教育の優位性や意義・目的を再確認し、実践を通じた気づき(課題)と工夫を共有することで、他プロジェクトへの参考となる。

3. 主な対象者

高等教育関係者(本邦大学教職員、コンサルタント、専門家、JICA 関係者、JICA 職員等)



4. 使用言語


日本語

5. 開催方法

オンライン開催

6. 登壇者(写真付きプロフィール)

<p style="text-align: center;">国立東京工業大学 環境・社会理工学院学院長 高田 潤一(たかだ じゅんいち)</p>	
<p>1992 年東京工業大学博士(工学)。千葉大学を経て、1994 年より東京工業大学に在職、2022 年より現職。日本学術振興会の高等教育 ODA 事業である拠点大学方式学術交流(インドネシア大学(UI)、バンドン工科大学(ITB)、フィリピン大学(UP)、キングモックット工科大学ラカバン校(KMITL);すべて理工学分野)のコーディネータ業務への従事(1994-2000)を皮切りに、KMITL ReCCIT プロジェクト短期専門家(1997-2002)、AUN/SEED-Net プロジェクト分野別コーディネータ(電気電子工学、2003-2023)、カンボジア工科大学 ECaD および LBE プロジェクトチーフアドバイザー(2011-15,2018-)、E-JUST プロジェクト国内支援委員(2019-22)、ラオス国立大学 HUGETECH プロジェクト業務実施(電気・電子)(2020-)など、JICA の高等教育協力案件に長年関与。専門は無線通信、工学と国際開発。国際開発学会副会長(2020-)。</p>	
<p style="text-align: center;">エジプト日本科学技術大学(E-JUST) 元第一副学長(国際・地域連携担当) 鈴木 正昭(すずき まさあき)</p>	
<p>2003 年にスタートした JICA プロジェクト AUN/SEED-Net に東京工業大学教授として参加、環境工学の分野を担当。2008 年よりエジプト・日本科学技術大学(E-JUST)設立プロジェクトに参加し、環境・エネルギー工学専攻の立ち上げを支援。2014 年 3 月に東京工業大学を定年退職後、JICA 専門家として E-JUST に着任、9 月より第一副学長に就任、国際・地域連携担当副学長として、また学長アドバイザーとして、E-JUST の国際化、アフリカ諸国からの留学生の獲得、日本型工学教育の推進、学部の基礎教育の立ち上げ、学部入試の実施など、E-JUST 設立に貢献。2013 年 7 月副学長任期を満了し、E-JUST プロジェクトを離任、現在に至る。専門は原子力化学工学、プラズマ理工学。</p>	

JICA エジプト日本科学技術大学(E-JUST) プロジェクト(フェーズ 3) サブチーフ 佐々木 慶子(ささき ちかこ)	
<p>大学院修了後、理化学研究所勤務を経て、2011年に青年海外協力隊(マーシャル諸島共和国)に派遣。2014年よりJICA 人間開発部に専門嘱託として所属し、ABE イニシアティブや Pacific-LEADS 等の留学生案件の立ち上げや、ルワンダ、カンボジア、ラオス、ウズベキスタン、ミャンマーの技術協力プロジェクトおよび無償資金協力プロジェクトを担当。2019年よりカンボジア工科大学のLBEプロジェクトに業務調整として着任。2022年9月よりエジプト・日本科学技術大学設立プロジェクトにサブチーフアドバイザーとして着任。</p>	

7. 次第

時間	内容	発表者／司会
16:00-16:10	開会の挨拶、本日の流れ、冒頭説明(10分)	JICA エジプト日本科学技術大学(E-JUST)プロジェクト(フェーズ3) サブチーフ 佐々木 慶子氏
16:10-16:25	話題提供①(15分) タイトル:「研究室中心教育(LBE)」導入の実践	東京工業大学 環境・社会理工学院 学院長 高田 潤一教授
16:25-16:40	話題提供②(15分) タイトル:「理工基礎力」強化を目的とした実験・実習授業の導入	エジプト日本学技術大学(E-JUST) 元第一副学長(国際・地域連携担当) 鈴木 正昭氏
16:40-17:10	ディスカッション(30分)	モデレーター:
17:10-17:35	意見交換および質疑応答(25分)	佐々木 慶子氏
17:35-17:40	まとめ・閉会挨拶(5分)	

8. 議論方法

オープン・ディスカッション

議題:

- 議題1: 日本式を持ち込むことの成果と課題(ギャップ)
- 議題2: 「日本型工学教育」の成果および成果に対する評価
- 議題3: 途上国での導入・実践で重要な点、アドバイス

以上